

こんな仕事を進めます 長崎市の予算

長崎市では、まちづくりの指針となる「**長崎市第四次総合計画**」に沿ってまちづくりを進めています。

人口減少や少子化・高齢化をはじめとした変化に対応するためには、市民の皆さんと力を合わせて、長崎の強みを活かしたまちづくりを進めることが重要になります。

そのような中、平成27年度の予算が決定しました。この予算に基づいて、長崎市はさまざまな仕事に取り組みます。

都市経営室 ☎829・1111
財政課 ☎829・1126

第四次総合計画

将来の都市像
希望あふれる
人間都市

将来の都市像
個性輝く
世界都市

まちづくりの基本姿勢
つながりと創造で新しい長崎へ

将来の都市像を「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」とし、これを実現するためのまちづくりの基本姿勢を「**つながりと創造で新しい長崎へ**」としています。

これは、世界がその価値や魅力を認める「長崎らしさ」と、住む人を起点に考える「暮らしやすさ」に重きを置きながら、新しい長崎をみんなで創っていくことになっています。

予算はこの計画に基づいて作られています。

どう使うの？ 長崎市のお金

平成27年度 当初予算

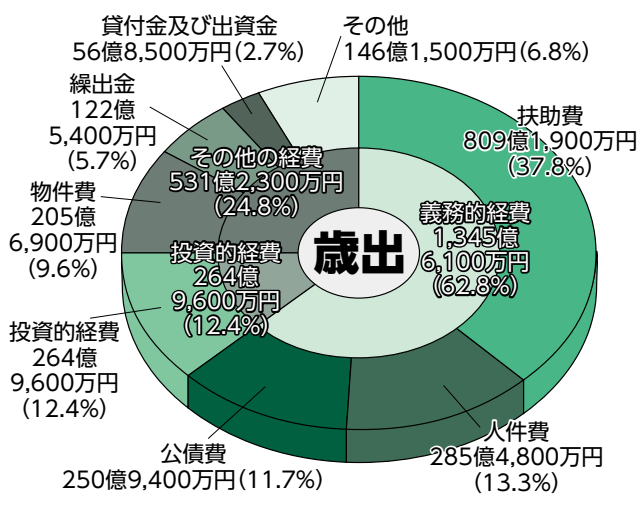
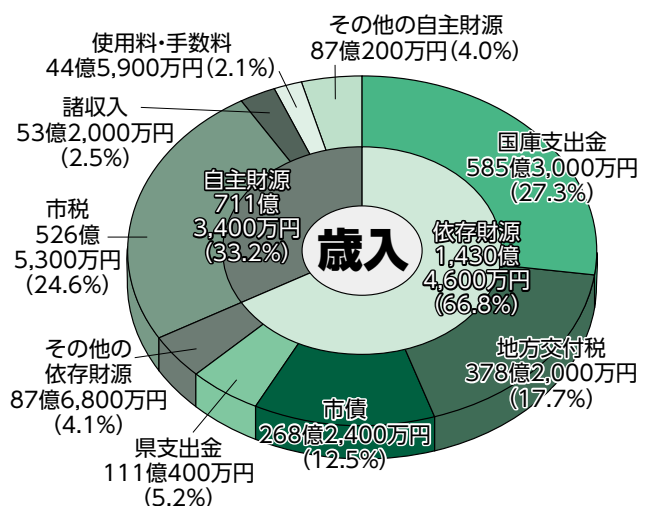
平成27年度当初予算は、4月が市長の改選期にあたることから、継続事業や通常の市政運営に必要とする経費などを中心とした骨格予算の考え方を基本としています。しかし、政策的な事業についても、

- ・緊急性を要する景気・雇用対策に関する事業
- ・国、県、関係団体などとの連携・協調が必要な事業
- ・実施時期や工期の関係から年度当初に行う必要がある事業

などについては、当初予算に計上しています。

平成27年度当初予算（一般会計）総額 2,141億8,000万円

一般会計…市の基本的な仕事をする予算で、税金などが主な収入になっているもの。



歳入全体のうち、市が自ら確保できる市税などの自主財源は33.2%です。残り66.8%は国や県からの補助金や地方交付税、市債（市の借金）などで賄われます。

また、歳出全体のうち、減らすことが難しく、どうしても支払わなければならない費用である扶助費（福祉関係の経費）や人件費、公債費（借金返済）などが全体の62.8%を占めます。残りのお金でほかの仕事を行わなくてはなりません。

長崎市は、さまざまな収支改善を行っていますが、今後も人口減少や少子高齢化などが続くことから、自主財源の確保が困難となる一方、福祉関係の経費が増加することが見込まれます。そのため、事務の効率化を図りながら持続可能な財政運営に取り組めます。

歳出を目的別に見てみると

費目	予算額
民生費	1,007億900万円
土木費	211億4,500万円
衛生費	201億7,000万円
総務費	179億6,400万円
教育費	141億6,800万円
商工費	47億9,000万円
公債費	250億9,400万円
消防費等 そのほか	101億4,000万円
合計	2,141億8,000万円

当初予算（一般会計）を、家計簿に置き換えると

収 入	金額	支 出	金額
①現金収入	166万円	①生活費	314万円
給料(市税)	123万円	食費(人件費)	67万円
パート収入(使用料・手数料など)	35万円	医療費(医療費の助成、生活保護など)	189万円
貯金の取り崩し(基金繰入金)	8万円	借入金(ローン)の返済(市債の元金や利子など)	58万円
②もらったり借りたりするお金	334万円	②家の増改築費など(道路や学校の新築改修など)	62万円
親からの仕送り(国や県からのお金)	271万円	③その他の経費	124万円
借入金(ローン)(国や銀行からの借入金)	63万円	光熱水費(光熱水費や委託料など)	48万円
		家具などの修繕費(施設の維持補修など)	4万円
※借入金(市債)残高584万円		子どもへの仕送り(他の会計への繰出金)	29万円
※貯金(基金)残高93万円		貯金(基金への積み立て)	3万円
		その他(補助金負担金など)	40万円
合計(①+②)	500万円	合計(①+②+③)	500万円



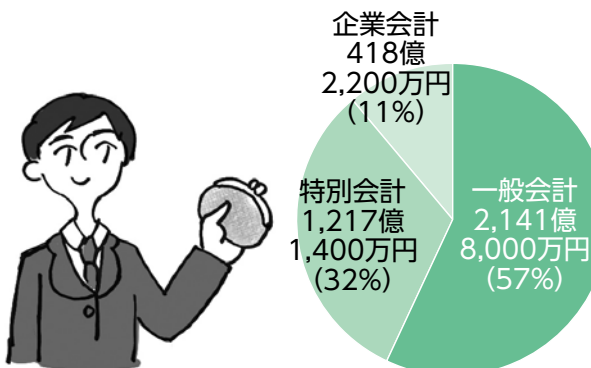
収入については、現金収入(給料+パート収入など)が全体の3分の1と低く、親からの仕送り(地方交付税、国庫支出金など)に大きく頼った状況になっています。

一方、支出については、食費など(人件費)の削減に努めていますが、医療費(医療費の助成、生活保護など)の負担が大きいという状況です。

そういう中で、今、市民の皆さんに必要なことの把握に努めたり、将来の市民の皆さんに必要なことを見据えながら、これまでの取り組みを改めて検証し、既存事業の見直しも併せて行うなど、さまざまなやりくりをして、「市民に分かりやすく説明できる」予算編成となるよう心がけています。

ほかにも会計はあるの

一般会計のほかに、特定の収入(保険料や使用料など)により賄われる特別会計(12会計)と、その仕事自体に収益があり、支出を収益で賄う企業会計(2会計)があります。一般会計と合わせた市全体の予算額は、次のとおりです。



市の貯金と借金を教えて

市民1人あたりの貯金は
9万 1,000円

貯金(基金)の残高見込みは397億 6,821万円です。

市民1人あたりの借金は
57万 3,000円

借金(市債)の残高見込みは2,502億 9,213万円です。

※見込みは平成27年度末、一般会計分。人口は436,576人(平成26年12月31日現在)



進めます!!

「世界都市」「人間都市」の実現に向けて8つの事業を行います。その一部をご紹介します。

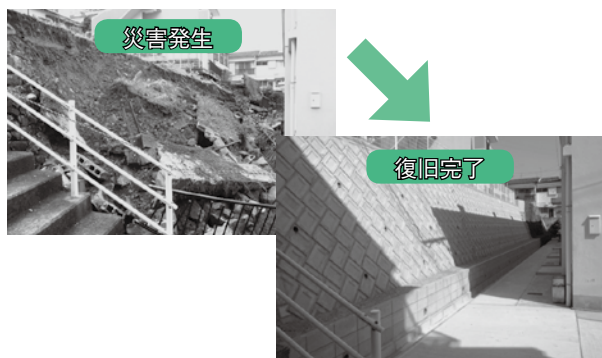


5 安全・安心で快適な暮らしの実現

宅地のがけ災害を復旧支援

(2,000万円)

災害が発生した個人が所有する宅地などがけで、その復旧工事費の一部を助成することで、斜面地における市民の安全・安心な生活環境を確保します。



都市計画マスタープランを見直し

(1,761万円)

地区の特性や魅力を活かしたまちづくりを進めるため、都市計画の基本的な方針である都市計画マスタープランを改訂します。



6 ともに支え合い、いきいきと暮らせる地域社会の実現

子育てしやすいまちを目指して

(132億6,705万円)

「子ども・子育て支援新制度」のスタートにより、認定こども園、保育所、幼稚園、放課後児童クラブなどへの支援を充実させます。これにより、保育の量の拡充と質の向上を図ります。

胃がんを早期発見 (2,277万円)

簡単な血液検査により胃がん発生の危険度を調べる「胃がんリスク検診」を新たに導入します。



7 創造的で豊かな心の育成

学校図書館を活用しやすく (6,140万円)

学校図書館司書を36人から43人に増やし、学校図書館を活用した授業を推進します。

日吉青年の家の建て替え

(6億4,800万円)

魚さばきや農作業など、長崎ならではの自然体験ができる施設として整備します。(来年4月オープン予定)



8 多様な主体による地域経営

長崎のまちをみんなでつくる (394万円)

まちづくりの基本的なルールや役割分担などを定める自治基本条例（(仮称)長崎市よかまちづくり基本条例）の今年中の制定を目指します。

平成27年度は、当初予算に加え、平成26年度補正予算による人口減少対策や地域経済活性化の取り組みも実施します。

※主な事業は次のとおり

外国人観光客へのおもてなし

(3,297万円)

外国人観光客に長崎のまちを快適に過ごしてもらうため、外国人観光客が多く訪れる浜んまち商店街に、免税手続き一括カウンター、トイレ、観光情報発信などの機能を備えた施設を整備します。

クロマグロ養殖の収益向上に向けて

(113万円)

市内の養殖場の卵を用いて量産化の試験を行い、成魚までの一貫生産の可能性を検討します。

プレミアム商品券発行 (6億9,725万円)

身近な地域での買い物が活発になるよう、商工団体が実施するプレミアム付き商品券の発行に対して補助をします。

※例えば1万円分のプレミアム商品券を購入すると、1万1,500円分の買い物ができます。



特集

市政

長崎市民

プ
レ
ゼ
ン
ト
ご意見

生活情報

健康

子育て

福祉

講演講座

もよおし

おしらせ

募集

① 個性を活かした交流の拡大

2つの世界遺産があるまちを目指して
(4億9,298万円)

明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域

今年、ユネスコ世界遺産委員会で登録に向けた審議が予定されています。登録決定を受けて記念イベントを開催するほか、産業革命遺産の価値を知ってもらうための講演会を開催したり、端島炭坑の遺構調査や居住施設の保存のための研究を進めたりします。

長崎の教会群とキリスト教関連遺産

専門機関イコモス（国際記念物遺跡会議）の現地調査に対応するなど、平成28年の登録に向けて取り組みます。

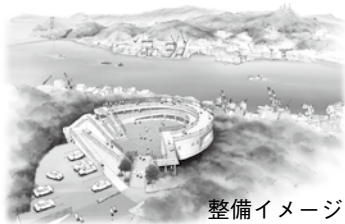


明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域（端島炭坑）

長崎の教会群とキリスト教関連遺産（出津教会堂）

夜景観光の推進（1億3,220万円）

鍋冠山公園展望台をリニューアルし、今以上に世界新三大夜景を楽しむようにします。

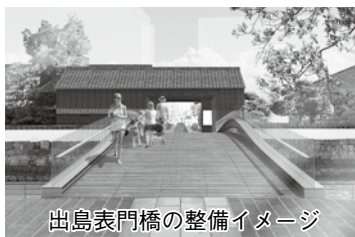


整備イメージ

出島の魅力をさらに高める

（5億1,280万円）

平成28年秋の完成を目指して、出島と江戸町を結ぶ出島表門橋の架橋と出島対岸の中島川公園の整備を一体的に進めます。



出島表門橋の整備イメージ

セントポール市との姉妹都市60周年を記念（1,264万円）

日本で初めての姉妹都市提携を行ったアメリカ・セントポール市と相互に公式訪問団を派遣するとともに、市内の中学生を派遣し、交流をさらに深めます。

野母崎田の子地区の再整備（500万円）

水仙の里などがある野母崎の田の子地区において、野母崎地区全体の将来ビジョンを視野に入れながら、地域の皆さんと一緒に再整備の計画を作ります。

こんな仕事を

平成27年度当初予算では、総合計画に掲げる重点テーマを設け、それぞれのテーマに沿った

② 平和の発信と世界への貢献

被爆70周年の節目を迎えて

（2億3,677万円）

被爆の実相の継承

原爆資料館で、最新の映像機器の導入などにより、展示をさらに充実させます。また、城山小学校被爆校舎・山里小学校原爆資料室の写真パネルを更新します。

平和アピールの発信強化

世界150カ国以上の子どもたちと長崎の子どもたちが、共に平和について考える「世界こども平和会議」を開催します。また、軍縮や平和問題について世界の科学者らが話し合う「第61回パグウォッシュ会議世界大会」の長崎での開催を支援します。



世界こども平和会議（昨年のプレ大会の様子）

③ 地域経済の活力の創造

新たな企業の誘致に向けて

（7億6,700万円）

九州新幹線西九州ルートの特設トンネル工事で発生する土を活用して、田中町に企業立地用地を整備します。（平成32年度分譲開始予定）

④ 環境との調和

自然エネルギーの収益で環境行動

を応援

（2,941万円）

市民の皆さんの環境保全活動を支援するため、市直営の太陽光発電所「ながさきソーラーネット〔メガ〕三京発電所」で発電した電気を持って得た収益を「ながさきエコライフ基金」として積み立てます。